

報 告 書

No. 1

名 称	ナショナル・トレーニング・システム(NTS)		北海道	ブロックトレーニング	
実施期間 1	令和元年 8 月 24 日 ~ 8 月 25 日				
開催場所 1	札幌国際大学 第1体育館・第2体育館、札幌真栄高校 第1体育館				
実施期間 2	令和元年 月 日 ~ 月 日				
開催場所 2					
参 加 者	スタッフ	17 名	デモンストレーター	名	
	U16選手	30 名	U13選手	30 名	
	推薦指導者(U16)	7 名	推薦指導者(U13)	7 名	合計 91 名
<p>目 的</p> <p>NTS 北海道 ブロックトレーニング に於ける発掘・育成活動について</p>					
活 動 内 容					
日 時	時 間	内 容			
8月24日(土)	9:30	宿泊地(サンブラザ札幌)出発、運営委員・技術指導者			
	10:00	受付準備・体力測定準備・派遣トレーナーとの打ち合わせ			
	11:00	受付開始、完了者から随時、「体力測定」(札幌U-13推薦指導者)			
	11:30	「体力測定」開始、国際大学、第1体育館			
	11:30	技術指導員・推薦指導者、最終打ち合わせ(昼食兼)			
	12:45	開講式、国際大学第1体育館			
	13:00	ブロックトレーニング開始 ウォーミングアップ(ベーシック7)派遣トレーナー			
	13:30	U-13は第2体育館に移動 技術指導員・推薦指導員も移動			
	16:00	1日目、アリーナトレーニング終了 着替え・バス乗車			
	16:20	バスにて宿泊地へ移動(サンブラザ札幌)			
	16:30	サンブラザ札幌にて管理栄養士との打ち合わせ			
	17:15	チェックイン完了			
	18:00	食事会場にて管理栄養士(須合氏)より、栄養指導 及び 夕食			
	19:20	食事会場にて学習会(派遣トレーナー武田氏)「ベーシック7αの活用」			
	20:10	カテゴリー、チーム毎、スタッフによるミーティング。			
	20:30	選手解散、1日の反省 就寝22:00			
	20:40	運営スタッフ・技術指導員・推薦指導者、反省会			
21:30	解散 1日目終了				
8月25日(日)	6:30	管理栄養士による食事に関する学習会 6:50~食事開始			
	8:00	カテゴリー・チーム毎集合、バス乗車			
	8:40	U-13は真栄高校へ、U-16は国際大学へ			
	9:00	2日目、トレーニング開始 ~11:20,U-13終了、国際大学に移動			
	11:45	閉講式、札幌国際大学第1体育館、認定書配布、記念撮影、片付け			
	12:30	センタートレーニング推薦会議 (札幌国際大学 会議室)			
	13:30	全日程終了、解散			

成 果	
①本年、令和元年より北海道ブロックトレーニングを札幌にて開催。 函館・紋別・音更・釧路・・・選手は前泊なしで、トレーニング会場に到着できる開催地となった。	
②デモンストレーターは無し、全てをブロックのスタッフで賄った。前日(8月23日)夜の技術指導員会議が有益だった。 推薦指導者にも予め、役割を与えることにより、トレーニング中全てのスタッフが係わった。	
③メインインストラクター(U-13・U-16)を中心として、技術指導員と推薦指導者をDF担当・OF担当・GK担当に 割り振りをした。各カテゴリーの男女を2チームに分け、トレーニング・食事・ゲーム・学習会全ての行動を共にした。 ※ 引率・生活指導の面で、スムーズに展開した。次年度以降も継続したい。	
④1日目、GKのみのトレーニング時間を確保、GKコーチを招集した。効果有り、継続。	
⑤管理栄養士、ハンドボール競技を理解してくれる方で、「コンタクトスポーツに必要な食事」がメインとなった。 1日目の開講式から、全て見学していただいた。この競技の理解・普及のためにも全日程帯同していただきたい。	
⑥派遣トレーナー、アリーナでの活動ではなく、食事会場・勉強会・2日目の朝などトレーナーの活用の幅を広げた。 今後も、継続発展したい。	
⑨センター推薦者、スタッフのチーム制を引いたことにより、スムーズな提案・検討がなされた。	
今後の課題	
①カテゴリーがU-13・15になったことで、隣接の2コートの確保は必須である。	
②宿泊地は会場から近いところに確保したいが、時期的に札幌で大きなイベントがあると厳しいものがある。 日程の検討を、イベントを避けて行う必要性がある。 広域なブロックを考えると夏期休業中に行いたい。しかし、北海道ブロックの夏期休業が8月第3週には終了するため、 日程調整は難航するものと思われる。	
③関係者(スタッフ)のみならず、保護者・派遣栄養士・派遣トレーナーなどもハンドボール界に引き込みたい。 その方策・アイデアも出していきたい。	
④事前にトレーニング内容を理解する上で、今回配布の冊子(動画QRコード)は大変役立った。	
責 任 者	北海道ブロック運営委員長 亀山耕司